

学校法人就実学園
就実短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

就実短期大学の概要

設置者	学校法人 就実学園
理事長名	片山 邦宏
学長名	押谷 善一郎
ALO	森安 秀之
開設年月日	昭和28年4月1日
所在地	岡山県岡山市西川原1丁目6番1号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育学科		100
生活科学科		120
文化コミュニケーション学科		70
	合計	290

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

就実短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 7 月 5 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は「去華就実」の「就実」を校名とし、その精神を建学の精神として永年にわたって取り組んできた短期大学教育の成果とその実績は高く評価されるものであり、特に中・四国地域における有為な人材を多く育成し社会に多大な貢献をしてきた高等教育機関である。

優れた面として、まず教育環境があげられる。就実大学を四年制大学として併設していることによるものでもあるが、体育館・図書館・情報演習室・各実習教室・学生食堂などが完備され、当該短期大学の学生もこれらの施設利用を通して充実した学生生活を送ることが可能となっている。

教育内容は、建学の精神に基づく各学科の教育目的・教育目標を具現化したものとなっており、免許・資格に必要な教育内容も併せて実践力、実用性に対応できるような教育課程であるといえる。教育目標の達成度においては、単位の取得状況は良好であり、また教育課程に含まれない資格取得支援の課外講座が豊富であるなど、学生の満足度はおおむね良好である。学生支援においても、クラス担任制、オフィス・アワーが充実しており、また入学前指導から進路指導に至るまで一貫して行われている細かな指導は評価できる。

研究については、著作数及び論文数をみる限り、短期大学の教員の業績としては妥当といえる。社会的活動では、公開講座・生涯学習講座・演奏会の開催のほかに「就実教育実践研究センター」を設立し、地域との密接な交流を行うなどの貢献をしている。

管理運営面においては、理事会・教授会はおおむね適切に運営され、また事務組織も人事管理も良好に行われている。年度の予算については適正に立案・執行され、また適切な会計処理に基づいて管理されている。従来から堅実な経営を行っており、資金的な問題もない。図書館、体育館、グラウンドなどの整備も積極的に行われ、教育環境の充実に努めている。

自己点検・評価については、委員会規程を定めて教職員が一体となって定期的に点検・評価を行っている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「去華就実」の「就実」を、「誠実であること」「内面が充実していること」ととらえ、「表面的な華美を追うのではなく、内面の誠実と充実に努め、実用的なちからを養うこと」と解釈していることは、学生に周知するうえで非常に分かりやすい。また、それを多様なメディアを通じて広く周知している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学科会議などでの教員間の協議や、情報交換が積極的であり、教育改善の体制が充実している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学までの自主学習課題の実施状況や体験などを記述させ指導するという試みで、入学前から学生の学習生活の向上を積極的に図っている。
- 多様な方策により就職支援活動が徹底しており、保護者対象の就職懇談会、業界研究セミナー、就職ウェブサイトへの対策、就職体験報告会、「PLACEMENT BOOK No. 1・No. 2」、電子メールによる就職情報の伝達、就職未内定の卒業生への求人情報の提供などを実施している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生の学内ボランティア団体である GBA (GIRLS BE AMBITIOUS) の地域社会を巡回しての公演活動(地域の保育所、公民館、児童館などを巡回しペープサート、ブラックシアター、創作オペレッタなど)は、教育を実践の場に生かし地域のニーズにこたえている。特に「備前地域子育てキャラバン事業」は学生のニーズに見合った活動としても注目される。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各科目のシラバスにおいて、授業内容の情報が少なく評価基準なども不明瞭であるので、その充実と改善が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 全体として教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動や職員のスタッフ・ディベロップメント（SD）活動が組織的に実施されていないので、その積極的な取り組みが求められる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金は十分あるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支の構造にやや問題がみられるので改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

明治 42 年岡山市出身の文部大臣小松原英太郎が巡視の際に潤筆した「去華就実」という戊申詔書の一句に基づいて「就実」を校名とし、これを建学の精神とし伝統的に今日まで継承されていることは、この精神が建学の精神として確立していることを意味している。

しかし、具体的な周知方法や教育活動への反映の仕方については、例えば学則に学科の教育目的・教育理念が明確にされておらず、またこれらのことが理事会・教授会で議論されることも少ないようである。したがって、学生・教職員が印刷物その他で教育理念あるいは教育目的・教育目標を共有化するための施策を講ずることが今後の課題である。

「去華就実」の「就実」を単に「実に就く」「実用的であること」とのみとらえるのではなく、「誠実であること」「内面が充実していること」ととらえ、「表面的な華美を追うのではなく、内面の誠実と充実を努め、実用的なちからを養うこと」と分かりやすく解釈するなどの姿勢は高く評価されるものであり、今後はこれらの教育理念について特に学内への周知が望まれる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神に基づく各学科の教育目的・教育目標を具現化した教育内容及び開講時期などが系統的に配置されており、社会で必要とされる実践力、実用性に対応できるような多種の選択科目を設定している。教育指導も教育内容に応じたクラス編成が適宜工夫されており、免許・資格に必要な教育内容は十分である。また、学生の授業出席率や履修状況は良好で学生の習熟度も高い。

このような現況から、短期大学にふさわしい教育内容とレベルを維持していると評価で

きる。さらに、3 学科とも、地域に根付いた実践力のある職業教育を一層充実させるための見直しと改善に向けて、教育課程・内容及び指導方法について常に協議・検討を行い、各教科における学生指導も大変きめ細かくなされている。

ただし、学生へのアンケート調査結果によれば、学生の学業への積極的な意欲は低い状況なので、今後はさらに学生の学ぶ意欲の向上に向けて指導の充実と改善を図る必要がある。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育の実施体制は、適切に整備・運営され、機能している。教育体制は学科教育が中心となり、各教育課程を充実させ習熟度を高めるような学科会議及び各関係会議が有機的に連携している。教員組織は短期大学設置基準を満たしており、教員年齢平均が高いことやそれに伴う職位の偏りなどはみられるものの、教育実施体制は充実しているといえる。

校地・校舎などは短期大学設置基準を十分満たしており、学習・授業用機器・備品などは大変よく整備されている。特に図書館・体育館はハード・ソフト両面において非常に良く整備され、学生はもちろん教職員にとっても教育・研究の実施体制と教育環境という面からみて大変恵まれた状況にある。今後は各学科の入学定員数の確保と学生の主体的な教育体制・教育環境の利用、及び当該短期大学の費用対効果の促進が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度においては、単位認定の方法が出席・受講状況を重視するといった現状を改め、評価基準の向上を図る余地があるとはいえ、単位の取得状況は良好であり、目標がおおむね達成されていると考えられる。授業評価アンケートは自由記述を含んでおり、学生の満足度に配慮するとともに各授業担当者が学生の意見をより詳しく知ることができるものであり、FD の参考資料としても活用されている。

教育課程に含まれる資格取得以外にも資格取得の支援となる課外講座などが豊富にあり、取得の実績は十分なものとなっている。教育の効果については、就職先からのフィードバックや卒業生自身に対して実施されているアンケート調査への回答がおおむね良好であることから評価できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

カウンセラー又は相談員に相談できる時間・曜日が少なく、悩みを抱えている学生への対応に十分な力を注いでいないことが最も大きな課題である。一般の学生支援においては、学生生活アンケートや学長と各クラブ・同好会の代表者との懇談により意見や要望が聴取されており、適切な対応がなされている。

奨学金については、平成 19 年度の日本学生支援機構の奨学生数は全学で 125 人に達しており、十分と考える。他方、当該学校法人独自の奨学金制度は 3 種類が設けられているが、「就実大学・就実短期大学修学支援奨学金」と「就実の木奨学金」は過去 3 ヶ年にお

ける採択総数が1件と少ない。

就職支援は、イベント、発行物、卒業後のフォローなどの各面で徹底しており評価できる。次のステップとして、学生の総合的なライフプラン作りへの支援が導入されれば、さらに優れた支援体制になるものと思われる。

評価領域Ⅵ 研究

当該短期大学全体において研究活動は活発化しており、実績があがりつつある。過去3ヶ年に国際的な活動をした教員は少ないが、地域貢献においては公開講座や講演会が研究を生かす場としてほぼ全員の教員に活用されている。

補助金においては、過去3ヶ年に科学研究費補助金の申請・採択はなく、その他の外部研究資金の採択は8件と少なく、今後は学科組織の研究体制でエントリーする研究テーマの構築を含めてその拡大が望まれる。また当該短期大学独自の教育・研究・出版助成制度があるが、申請・採択はない。

研究活動のインフラにおいては、研究室・OA機器・図書などが適切に整備されている。著作数及び論文数は合わせて86に上り、様々な業務を抱える短期大学教員の業績としては妥当であると考ええる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

「去華就実」の名のもと、社会的活動をもって地域社会に貢献することを重要な使命と位置付けた積極的な取り組みがみられる。各種公開講座、生涯学習講座、演奏会なども活発に行われている。全学的な取り組みとしては、「就実教育実践研究センター」を設置し「就実こどもフェスタ」の開催や「まなびピア岡山2007」に協賛するなど、地域との密接な交流がうかがわれる。また、学生の学内ボランティア団体であるGBAによる、地域社会を巡回しての「備前地域子育てキャラバン事業」の公演活動は、地域のニーズに沿った子育て支援活動として高く評価され、岡山県からも「平成19年度夢づくり推進大賞」を受賞している。

これらのことから、学内での教育が地域社会に還元され、実践的な学びと有機的に結びついた社会的活動への取り組みとなっており高く評価できる。

評価領域Ⅷ 管理運営

併設する四年制大学との緊密な関係の下に管理運営が行われることも期待されるが、専務理事を置いて理事長の補佐体制を強化し、理事長のリーダーシップの下に学長、短期大学部長、事務部長らが指導性を適切に発揮できる体制を確立していることは高く評価できる。教職員の就業環境についても、育児休業、介護休業などの規定も適切に定められ、健康管理も行き届いている。これらのことが、理事会と教授会の良好な関係、教員と事務職員の緊密な協力関係を築いているものといえる。理事会・評議員会・監事会、教授会ともに、定期的にかつ適切に開催運営されていることも評価できる。

ただし、授業内容・方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施については、短期大学設置基準上義務化となっていることから、今後早い時期に実施体制を組織し、教員の内部昇任の具体的基準を設けることなども含めて議論する必要がある。同様に事務職員の能力開発や事務能力の向上のための研修についても組織的に行うことを期待したい。

評価領域Ⅸ 財務

当該短期大学の中・長期の財務計画は現在検討中であり、策定には至っていないが、年度の予算については適正に立案・執行され適切な会計処理に基づいて管理されている。公認会計士・監事による監査や、私立学校法に基づく情報公開なども適切に行われている。

短期大学部門の消費支出比率は近年、若干高くなっているが、昨年度は改組を行い収支構造の見直しを図っている。また、自己点検・評価報告書記載のとおり、従来から堅実な経営を行っており、資金的な問題もない。学校法人全体としては、平成 15 年度から併設四年制大学において薬学部の創設や人文科学部への改組転換を行い、図書館、体育館、グラウンドなどの整備も積極的に行われ、教育環境の充実に努めている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価・改善委員会規程を定めて定期的に自己点検・評価が行われており、今回の第三者評価においては、特に専任教員全員で執筆にあたったこと、事務局役職者や事務職員も資料提示と内容チェックのために全員が関与して取り組んでおり、自己点検・評価の精神からも適切な学長の判断として高く評価できる。

ただし、自己点検・評価報告書が平成 17 年度以降公表されていないことから、早期に今次の自己点検・評価結果の公表が期待される場所である。今後さらに、自己点検・評価・改善委員会の実質的な運営を通して教育の質保証に努め、中・四国を中心とした地域社会の期待にこたえることにより、特色ある短期大学としての一層の発展を期待したい。